

協議等の記録			
協議の名称	広報広聴会議（広報部会）	協議場所	全員協議会室
		担当職員	上西
日時	令和7年11月21日（金曜日）	開議	午前 10 時 03 分
		閉議	午前 11 時 00 分
出席委員	◎三上 ○竹内 小林 梅本（木村）	印刷業者	
出席事務局	上西		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員1名（平本）

協議の結果

1 議会だよりNo.207の掲載事項

発行日：令和8年1月31日（土） 全戸配布：令和8年2月2日（月）

- (1) 1ページ表紙（議会フォーカス）（担当：梅本委員）
- (2) 2ページ（議会と一く）（担当：竹内副部長）
 - ・12月議会の概要
- (3) 3ページ（広聴部会の取組）（担当：三上部長）
- (4) 4～5ページ（特集）（担当：小林委員）
- (5) 6ページ（常任委員会の審査報告）
- (6) 7ページ（討論、議決結果、人事関係等）
- (7) 8～15ページ（一般質問）
 - ・通常どおり1ページ3人掲載（先頭8ページのみ2人）
- (8) 16ページ裏表紙
 - ・12月議会を終えてひとこと（副議長）
 - ・「12月議会を傍聴して」もしくは「インターネット中継を視聴して」（議会モニター（2名）に依頼）
 - ・編集後記 広報部会の振り返り
 - ・2月特別議会の予定、3月議会の予定

今後のスケジュール

- ・一般質問原稿締切日 12月23日（月）
- ・部会の開催日程 12月17日（水）産業建設常任委員会終了後（午後予定）
※時間については後日連絡

12月22日（月）午後 4時00分～ 印刷会社同席
令和8年 1月 7日（水）午後 1時30分～ 印刷会社同席
1月15日（木）午前10時00分～ 印刷会社同席

2 その他

わがまちトークの総括について

<三上部会長>

広聴部会及び広報広聴会議で、わがまちトークの総括が行われる。広報部会委員も運営メンバーとして参加したので総括について聞くだけではなく、当日従事した中で気づいたことや感じたことなど、広報部会から出た意見を広報広聴会議で共有すべきだと思う。したがって、わがまちトークの運営について今から意見交換を行いたい実施してよいか。

（全員了）

<三上部会長>

それでは、わがまちトークの運営について今から意見交換を行う。意見はあるか。

<竹内副部長>

わがまちトークはざっくりばらんとしていた。グループによっては、議員が仕切りすぎているという問題があった。あまり発言しない参加者に対して、場を温めるために議員が発言量を増やすことはあるが、活発になった時点で「待つ」ことが重要である。始まる前にもう一度、議員間でファシリテーションのすり合わせをしたほうがよい。個人の手法でやってしまうことがあり、ファシリテーション研修受講から日も経っているため、再確認が必要だと感じた。また、タイムマネジメントについて冒頭で全体の構成は伝えているが、各グループが時間を測っていたか不明である。例えば、残り時間について「あと半分です」、「残り5分です」などと各所で伝えると参加者がまとめに入りやすいため、時間の把握がしやすい進行方法を考えるべきであると感じた。

<梅本委員>

参加者が意見を出し合ったほうがよい。意見が出にくいグループでは、要素を引き出す必要があったかもしれないが、活発なグループでは見守りながらタイミングを切り替えるだけでよかったと感じた。全体スケジュールについて、一つのテーマの発表途中で時間切れとなり、区切ってしまうことがあったため、スケジュール感の見直しも必要である。竹内副部長の前述のとおり、途中から広報広聴会議委員長が全体監督の役割としてマネジメントをされたことは重要であった。

<竹内副部長>

テーブル間に差があればアドバイスをし、「あと5分ですよ」と知らせるなど時間予告は大切であると感じた。

<小林委員>

グループ内でタイムキーパーなどの役割を決めてもよかったかもしれない。ファシリテーターが盛り上げようと話を切り出して盛り上がり始めたら、初対面であることも影響しているのか全体で話すのではなく、グループ内でバラバラに話しているのが気になった。

<三上部会長>

残時間を周知して参加者の「これだけは聞きたい」という質問には少し時間を延ば

して対応するなど、時間の予告は非常に大切である。また、今回、途中から導入した付箋の仲間分け作業は非常に重要であり、参加者全員で意見を共有できるよい時間になったと思う。これは議員ではなく参加者にやってもらうことが重要である。書く時には書くことに集中させ、議論は仲間分けをした時に盛り上がらせるべきであると感じた。また、ファシリテーターは自分の意見を言わず、意見が出やすいように促す程度の関わりがよい。

<竹内副部長>

積極的に発言を行う議員が多いので、改めて話し過ぎないように確認すべきである。

<三上部会長>

議員が「このまちに何が欲しいですか」といった誘導的な発言をすると、参加者がコントロールされてしまい、議員の望むものを探そうとしてしまう。「目に見えるものばかりではないですよ」といった、広げるためのヒント出しはよいと思う。

<竹内副部長>

書き終わって全グループの内容を見た後、その内容についてどう思ったかという話し合いの時間を設けたい。アンケート記入と併用して時間を設けていたため、話し合いがされないままアンケートを書き始めていた。

<木村委員長>

話し合いとアンケート記載の時間が整理されておらず、話し合いとアンケート記載の時間は分けるべきであった。

<三上部会長>

わがまちトークの「書く、話す、聞く、見る、思う・考える」という手順の最後の「思う・考える」のフェーズが最も肝心である。この最後のまとめがないと、「自分もまちづくりの主体として考えていきたい」といった気づきや共感が共有できないため、何のためにやっているのかという目的につながらない。

<竹内委員>

最後のまとめで、全体を見てどうだったか、今後どうするかといったアウトプットを参加者から一言ずつでももらうべきである。そうすることで行動が宣言になり、周りの意見を聞いて今後の行動を決めるきっかけになる。アウトプットの後にアンケートを書いてもらう流れがよい。

<三上部会長>

反省点を広聴部会とも共有したい。話し合いの活動を上手に実施されている団体では、ルールの確認として、1人が長く喋らない、意見を否定しない、みんなで盛り上げることを最初に行う。冒頭で、全体の構成と「最後は一言ずつ学んだこと、最後に繋げたいことを言っていただきます」と伝えることで、参加者が目的意識を持って作業に取り組むことができる。今後の課題として、飲み物やお菓子があり、あまり縛らない環境、リラックスした雰囲気で行うようなワールドカフェ方式での導入も検討してはどうかと考える。また、議員の服装もノーネクタイ、アロハシャツにするなど環境作りの一つである。

<梅本委員>

トーキョーコーヒーさんと Jun wa さんの2団体が参加したが、その経緯が不明であった。2団体が一緒に実施したことで、一方だけがメインになってしまう懸念がある。Jun wa さんがもし1人だけだった場合、議員の配置人数、グループ人数を調整する必要があったのではないか。

<三上部会長>

議員は参加者より少なくすべきである。

<竹内副部会長>

当日欠席者が出た場合など、急遽チーム編成が変わる際も話しやすい人数と議員の割合を考慮することが重要であり、アドリブでアレンジしていく対応が必要である。

<三上部会長>

わがまちトークの運営についての意見を広報広聴会議で広報部会から出た意見として報告するのでよろしくお願いします。次回は、12月17日(水)産業建設常任委員会終了後に開催するのでよろしくお願いします。